第　７４　号

平成２２年６月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川９８３
高野山真言宗　荒澤山 寿 楽 院
住 職　髙 橋 敬 行
電話　048-584-0302

語りと琵琶語り

五月十九日寿楽院本堂にて、鴻巣市在住の能村ご夫妻によって、語り（ひばり笛・杉本苑子作）琵琶語り（耳なし芳一・小泉八雲作）が上演され、一四〇名の皆さんが熱心に聞いて、一層雰囲気が盛り上がり、深く感銘を受けました。

上演終了後は、琵琶についてのお話があり、日本では、琵琶奏者が少ない中で、ご夫妻のような、お二人で上演するのは、他にないようです。

貴重なお話が聞けて有意義なひとときを過ごすことが出来ました。ご夫妻に心から感謝申し上げます。

人間（にんげん）

仏教が生んだ日本語

「あの人は人間が出来ている」「人間は考える葦である」

この人間という言葉は、もともとは仏教用語であり、単に人柄や人という存在だけを指す言葉ではなかった。仏教文献には、迷いの世界とその中に存在するもののありさまを説いて「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天」といっている。その六つの世界、六道の中の一つの「人」が人間である。つまり、人間とは、人が関わり合って生きているこの迷いの世界を意味する言葉であったのである。だから、「人」に「間」という字がつけられている。

空海の言葉　シリーズ

沈迷（ちんめい）の端（はし）に驚かずんば

ある可（べ）からず「性霊集」

●●●いま自分が、極楽と地獄の境の剣が峰に立っていることに驚くがよい

シャボン玉のような泡のことを、英語でバブルといいます。平成四年は、過去十数年ふくらませ続けてきたバブル経済が、はじけて消えた年でした。泡がすぐ消えることは、子供たちの童謡を聞かなくても、ビールを飲んでいてもわかることです。それなのに、バブル経済のパイプの先につながれた人たちは、空気が入ってどこまでもふくらんでいきました。

次々と大きくなったバブルは、パイプを離れてキラキラ光りながら、有項天になって空中を舞います。でも、ルンルン気分で幸せの絶項には長くいられません。みんな自分が極楽にいられるか、次の瞬間地獄に行くかの「剣が峰」に立っていることに気がつきませんでした。「剣が峰」とは、火山の噴火口の周囲のことです。相撲の土俵も剣が峰といいます。熱戦を繰り広げている二人のお相撲さんは夢中になっていますが、どちらかが土俵を割ります。

弘法さんは、「人生は、いつもいまがあなたの剣が峰だよ」といわれているのです。